

3. 主要事業の概要

【事業計画及び事業実績】

事業名	事項	事業量			備考
		令和5年度計画	令和5年度実績	令和6年度計画	
1 埋蔵文化財調査の受託事業	(1)埋蔵文化財発掘調査、遺物整理事業	23件(うち発掘調査16件26,910㎡)	25件(うち発掘調査20件27,135㎡)	31件(うち発掘調査23件17,893㎡)	
2 泉佐野市立歴史館いずみさの事業 (指定管理)	(1)展示公開事業 常設展示 特別展・企画展 エントランスホール展示(エントランスホールの運営) (2)講演会事業 (3)体験学習事業(学校教育連携) (学校教育連携) (普及事業) (4)資料収集・提供事業(広報広聴活動) (5)人材育成事業	年間目標利用者数 9,000名 297日間 特別展・企画展 3回 歴史館ギャラリー 2回 講演会・講座 15回 小学校団体受入れ 5件 出前授業 9回 WS・出張WS 33回 「歴史通信いずみさの」刊行 1回 中学生職場体験・博物館実習 1回	年間利用者数 8,658名 296日間 特別展・企画展 3回 歴史館ギャラリー 2回 講演会・講座 13回 小学校団体受入れ 6件 出前授業 7回 WS・出張WS 37回 「歴史通信いずみさの」刊行 1回 中学生職場体験・博物館実習 1回	年間目標利用者数 9,000名 295日間 特別展・企画展 3回 歴史館ギャラリー 2回 講演会・講座 13回 小学校団体受入れ 6件 出前授業 7回 WS・出張WS 12回 「歴史通信いずみさの」刊行 1回 中学生職場体験・博物館実習 1回	
3 日本民家集落博物館事業	(1)展示公開事業(展示事業) (2)講演会解説事業 (3)体験学習・学校教育連携事業 (各種催し事業・学校教育連携事業) (4)資料収集・提供事業 (5)普及・広報事業(広報事業) (6)保存修理・施設整備事業	年間目標入館者数 27,000名 常設展示 307日間 市民展示 5回 企画展示 1回 展示民家解説 通年 季節行事 8回 参加体験型事業 8件 校外学習受入れ 60件 映像作品撮影協力 1件 催し案内作成 4回 学校への利用促進活動 80回 動画の配信 6件 —	年間入館者数 25,204名 常設展示 305日間 市民展示 8回 企画展示 1回 展示民家解説 通年 季節行事 8回 参加体験型事業 10件 校外学習受入れ 62件 映像作品撮影協力 1件 催し案内作成 4回 学校への利用促進活動 80回 動画の配信 6件 枯れ松の伐採、園路階段等の整備	年間目標入館者数 29,300名 常設展示 304日間 市民展示 5回 企画展示 1回 展示民家解説 通年 季節行事 6回 参加体験型事業 7件 校外学習受入れ 60件 映像作品撮影協力 1件 催し案内作成 4回 学校等への利用促進活動 82回 動画の配信 4件 R5年度台風による屋根被害等の補修	
4 文化財資料活用事業	(1)発掘調査現地説明会・現地公開事業 (2)文化財講演会事業 (3)文化財体験学習事業 (4)文化財展示会事業 (5)文化財共同研究事業等 (6)文化財資料提供事業	年4回開催、参加者延べ 400名 動画配信3件、視聴者数 4,500名 年34回開催、参加者延べ 1,230名 年5回開催、参加者延べ 60名 年4回開催、参加者延べ 20,000名 文化財共同研究事業等1件 発掘調査成果活用件数 90件	年6回開催、参加者延べ 584名 動画配信2件、視聴者数 270名 年39回開催、参加者延べ 1,521名 年9回開催、参加者延べ 173名 年4回開催、参加者延べ 13,104名 文化財共同研究事業等3件 発掘調査成果活用件数 92件	年2回開催、参加者延べ 200名 動画配信2件、視聴者数 3,000名 年46回開催、参加者延べ 1,365名 年2回開催、参加者延べ 40名 年2回開催、参加者延べ 6,000名 文化財共同研究事業等2件 発掘調査成果活用件数 90件	現地公開事業についてはR5年度は、1調査に対して現地公開を複数回実施(通例は1調査につき1回)

(単位:千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比増減	分析・評価	
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)						
	経常収益		724,443	675,861	475,925	△ 199,936	(事業収益) 事業収益の減少については、府立博物館指定管理事業が終了したことによる減(242,541千円)が主な要因である。
		基本財産運用益	1,924	1,924	1,924	0	
		特定資産運用益	9,171	6,621	6,563	△ 58	
		受取会費	965	0	0	0	
		事業収益	668,258	653,212	455,518	△ 197,694	
		受取補助金等	36,598	9,809	9,421	△ 388	
		受取負担金	0	0	0	0	
		受取寄付金	6,846	2,132	1,012	△ 1,120	
		その他の収入(受取利息収入等)	681	2,164	1,488	△ 676	
		経常費用	898,786	831,029	602,178	△ 228,851	
		事業費	880,332	813,222	585,044	△ 228,178	(事業費) 事業費の減少については、府立博物館指定管理事業が終了したことによる 関連費用の減
		管理費	18,454	17,806	17,134	△ 672	
		当期経常増減額	△ 174,343	△ 155,168	△ 126,253	28,915	(176,753千円)に加えて、R4年度で事務所撤去関連経費の減価償却が完了したことに伴う減(139,395千円)などが生じた一方で資産除去債務の増(84,521千円)などが生じたことにより結果として減価償却費が減(54,707千円)となったことなどが主な要因である。
		経常外収益	0	0	0	0	
		経常外費用	22	36	11	△ 25	
	その他経常外損失	22	36	11	△ 25		
	当期経常外増減額	△ 22	△ 36	△ 11	25		
	当期一般正味財産増減額	△ 174,365	△ 155,204	△ 126,264	28,940		
	(指定正味財産増減の部)						
	特定資産運用益	0	0	0	0		
	受取寄付金	147	247	218	△ 29		
	受取会費	965	960	1,070	110		
	一般正味財産への振替額	△ 3,341	△ 2,149	△ 1,027	1,122		
	当期指定正味財産増減額	△ 2,229	△ 942	261	1,203		
	正味財産期末残高	1,234,027	1,077,881	951,879	△ 126,002		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

6. R5年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)									
戦略目標	成果測定指標	単位	R4実績値	R5目標値	R5実績値 (※1)	ウェイト	得点 (※2)	小計 (※3)	
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の実施 件数	件	48	51	63	40	40	40/40 【100%】	
II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)									
② 博物館利用者の拡大	日本民家集落博物館入館者数	人	26,110	27,000	25,204	8	0	24/32 【75%】	
	学校等への営業件数(プロセス)	件	77	80	80	8	8		
	外国人入館者数	人	888	1,350	2,625	4	4		
	オンライン動画の制作・配信数	件	4	6	6	8	8		
	貸部屋等施設利用件数	件	58	81	98	4	4		
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)									
③ (効率的経営の推進) (安定的財基盤の確立) (民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費(事業費/利用者数)	円	1,068	866	924	4	2	13/28 【46%】
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	1,813	2,670	2,246	10	5	
	(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額	千円	△ 155,168	△ 48,117	△ 126,253	10	2	
	(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金	円	1,206,939	1,210,000	1,288,276	4	4	

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
<ul style="list-style-type: none"> ・最重要目標に掲げた埋蔵文化財発掘調査成果の活用に関しては、発掘現場を府民に公開する現地説明会、調査成果を発表する講演会、調査を実施した市町村へ成果を還元できるよう地元博物館と連携した展覧会を実施し、目標を達成することができた。府立博物館の指定管理事業はR4年度で満了となったが、新指定管理者と連携し、府民への発掘調査成果の還元に努めた。 ・日本民家集落博物館の入館者数は、入館者数増加を見込める大型連休や土日等が天候不順と重なったこともあり目標を達成することはできなかった。ホームページやSNS等を通じて季節に応じた魅力を発信し、服部緑地との連携や民家を活用した企画により、入館者数増に努めていきたい。 ・埋蔵文化財調査事業に関しては、事業者側の計画変更や調査着手遅延により、事業件数減や調査面積縮小があった一方、年度途中からの新規事業受託に努め、年間の予定調査面積はほぼ確保できた。新規事業は調査面積が狭くかつ地下深くまで調査範囲の及ぶものがあり、面積の割に期間を要することから調査担当者一人あたりの調査面積は目標値未達成となった。事業者と綿密な協議を行い、事業量確保に努めるが、適切な事業量を評価するための指標作りについて今後検討する。 ・財政面では、埋蔵文化財調査の受託事業収入が不足したこと、日本民家集落博物館では入館料等の事業収入が不足し、赤字となった。変則的事象である中部調査事務所撤去に伴う減価償却費の積み増し額を目標値とした当期経常増減額は目標未達成となった。埋蔵文化財調査事業は受動的なものであるが、年度途中からの新規事業に対しても柔軟に人員配置を行い、更なる受託に努めた。埋蔵文化財調査は国や府が主導する公共事業が主であるが、これまで同様、府内市町村の文化財行政を補完する事業の受託にも努める。日本民家集落博物館事業では新規来館者層の開拓を行うとともに、26年ぶりの入館料改定を予定しており、収支改善を目指す。 ・大阪府の文化財行政を補完する法人として、埋蔵文化財の発掘調査を着実に実施するとともに、文化財資料活用事業や博物館事業を通じて府民の大切な地域資源である発掘調査の成果を府民に伝える取組みを積極的に推進していきたい。 	77